

書評

サル類の疾病カラーアトラス

サル類の疾病と病理の研究会（吉川泰弘会長）の10年にも及ぶ努力が「サル類の疾病カラーアトラス」（社団法人予防衛生協会発行）として結実した。本書の刊行に至る経緯や苦労については、吉川会長の緒言および宇根編集委員長の編集後記に述べられているが、兎にも角にも本書が刊行された意義は大きい。

産業動物、伴侶動物（イヌとネコ）および実験動物（主にげっ歯類）の疾病については、国内でも既に多くの図書が刊行されており、カラーアトラスの類も決して少なくはない。一方、サル類については、薬物安全性試験の病理学的評価の一助とすべく編纂された、自然発生性あるいは化学物質誘発性の主として退行性および増殖性病変に関するカラーアトラスが上梓されているに過ぎない。従って、本書のように、感染症をはじめとするサル類の疾病を包括的に取り上げたカラーアトラスの刊行は、少なくとも国内では初めての試みであろう。本書には病理所見を示す極めて良質のカラー写真が多数収録されており、疾病の理解を容易にしている。ただ、編集に長年月を要したため、ごく一部に記述がやや古くなった箇所も見受けられるが、本書の価値を減じるものではない。

本書の構成は、全身性疾患と局所性疾患の2部から成っている。全身性疾患にはサル類の主要な感染症が網羅され、それぞれの感染症毎に、その歴史的背景、発生状況と疫学、病理所見および診断と予防について、A4版1ないし2頁に纏めて過不足なく記述されている。サル類の感染症には人獣共通感染症も多く、本書はこの点についても的確な情報を与えてくれる。従って、本書は、未だに微生物学的統御に多くの問題を抱えているサル類を扱う研究者、検疫担当者および臨床獣医師にとって必携の書である。全身性疾患にはこのほか、糖尿病、線維性骨異栄養症等、非感染性疾患も収録されている。

一方、局所性疾患については、概ね獣医病理学各論に沿った章建てになっており、各器官系・臓器・組織に観察される種々の肉眼あるいは組織病変の大判のカラー写真とそれに対応する簡潔な解説を一組とし、A4版1頁に3組配してあり、非常に読みやすくなっている。局所性疾患に関する病理所見のカラー写真は、獣医病理組織学関連のカラーアトラスを補完するものとして、獣医系大学の学生に推奨したい。また、トキシコロジー領域の研究者にも大いに参考になるであろう。

本書は、社団法人予防衛生協会からの協賛事業として刊行されたこともあって、充実した内容を有する割には廉価で、何よりも読んで眺めて楽しい有益なカラーアトラスである。サル類（の疾病）に興味のある皆様には是非一冊手元に置かれることお勧めしたい。

土井邦雄（東京大学名誉教授）